

看護師対象フィジカルアセスメント教育における e ラーニング教材に関する 2013 年度アンケート分析

Analysis of Questionnaire of 2013 about Online Contents in Physical Assessment Training for Nurses

高橋 暁子^{*1}, 中嶋 康二^{*2}, 吉里 孝子^{*3}, 本 尚美^{*3}, 鈴木 克明^{*2}

Akiko TAKAHASHI^{*1}, Koji NAKAJIMA^{*2}, Takako YOSHIZATO^{*3}, Naomi MOTO^{*3} and Katsuaki SUZUKI^{*2}

^{*1}徳島大学, ^{*2}熊本大学, ^{*3}熊本大学医学部附属病院

^{*1}Tokushima University, ^{*2}Kumamoto University, ^{*3}Kumamoto University Hospital

Email: atakahashi@tokushima-u.ac.jp

あらまし：本稿では、看護師対象のフィジカルアセスメント教育の e ラーニング教材について、2013 年度の質問紙調査の結果を分析した。新人よりも中堅が教材によく取り組み、役立ち感やスキル向上の実感を得ていることが示唆された。

キーワード：e ラーニング, 看護教育, 質問紙調査

1. はじめに

筆者らは、2012 年度から看護師を対象としたフィジカルアセスメント教育の e ラーニングコンテンツの開発と教育実践に取り組んでいる⁽¹⁾。これまでに LMS (Moodle) を利用して開発した主要コンテンツは、初級・中級・上級の 3 段階に分かれた小テスト型の事例教材と、基礎知識を確認する小テスト型入門教材である。また、2012 年度は新人看護師のみを対象としていたが、2013 年度からは新人以外への提供も進めている。

本研究では、2013 年度の質問紙調査結果をもとに、教材の利用回数と有用性（役に立つと実感しているか、スキル向上を実感しているか）について、回答者の実務経験年数の違いにおける差を分析した。

2. 調査方法

2013 年度の e ラーニングコース受講者（227 名）を対象とし、職場へ質問紙を送付する形で質問紙調査（匿名回答）を実施した。実施期間は 2014 年 4 月 30 日～2014 年 5 月 31 日である。調査にあたって、対象者が所属する組織の倫理委員会の許諾を得た。

3. 結果

回答紙の返却数は 203 名で、研究利用未承諾者 5 名を除くと有効回答数は 198 名となった。以降では、看護師経験年数 1 年未満を「新人」、1 年以上 2 年未満を「2 年目」、2 年以上を「中堅」と分類した。

3.1 各教材の学習回数

各教材の学習回数について、「全く取り組んでいない（1 点）」「1 回取り組んだ（2 点）」「2～4 回取り組んだ（3 点）」「5 回以上取り組んだ（4 点）」として「新人」「2 年目」「中堅」の平均値を算出し、分散分析（3 群間 1 要因）を行ったところ、すべての教材で群間に有意差がみられた。多重比較検定（Tukey の HSD 法）の結果、入門・初級・中級に関しては、

2 年目は新人より多く取り組み、全教材で中堅は新人より多く取り組んだことが示唆された（表 1）。

3.2 有用性に関する回答

3.2.1 教材別の役立ち感

教材別の役立ち感に関する 8 つの設問（4 件法；4 がとても役立った）の平均について、3 群の差を分散分析で比較した。有意差があった 3 つの設問の多重比較検定の結果を表 2 に示す。

「自己学習教材（入門編）の穴埋め問題や多肢選択問題等は、基礎知識の復習に役立ちましたか？」という設問において、多重比較検定の結果、中堅は新人と 2 年目より役に立ったと考えていた。

また、「自己学習教材（上級編）の事例（ペーパーペイシェント）には書いていない、アセスメントに必要な情報項目を挙げる問題は、学習に役立ちましたか？」という設問と、「自己学習教材（上級編）のアセスメントを記述する問題は、学習に役立ちましたか？」という設問において、中堅は 2 年目より役に立ったと捉えていることが示唆された。

3.2.2 スキル向上の実感

「e ラーニング教材の利用によって、フィジカルアセスメントのスキルが向上したと思いますか？」

（5 件法；5 が非常に向上）の設問で、新人は平均 3.67（ $N=46$, $SD=0.75$ ）、2 年目は平均 3.34（ $N=50$, $SD=0.75$ ）、中堅は平均 3.80（ $N=92$, $SD=0.68$ ）であった。多重比較検定の結果、2 年目より中堅が 5%水準で有意に高かった。

また、その回答の理由を自由記述で問うと、「非常に向上したと思う」「向上したと思う」の理由において、群間で違いが見られた。

新人（16 名分）は、役に立った理由として「事例を通して実際の現場でも利用できることがあると考えられ、多方面からアセスメントできる力がつくと思うため。」のように実践に役立ちそうな事例に触れ

表 1 経験年数別の各教材の学習回数

	入門			初級			中級			上級		
	N	平均(SD)		N	平均(SD)		N	平均(SD)		N	平均(SD)	
新人	50	2.30(0.83)	] * *	49	1.98 (0.77)	] * *	46	1.59 (0.65)	] * *	45	1.40 (0.61)	] * *
2 年目	53	2.72(0.63)		53	2.57 (0.60)		53	2.29 (0.68)		53	1.70 (0.79)	
中堅	89	2.66(0.72)		90	2.52 (0.70)		92	2.29 (0.67)		92	1.79 (0.81)	

(*p<.05)

表 2 経験年数別の各教材の役立ち感

	入門			上級 (情報項目を挙げる問題)			上級 (アセスメント問題)		
	N	平均(SD)		N	平均(SD)		N	平均(SD)	
新人	38	2.95(0.32)	] * *	15	3.00(0.00)	] * *	15	3.00(0.00)	] * *
2 年目	49	2.98(0.59)		28	2.86(0.58)		28	2.79(0.62)	
中堅	86	3.20(0.52)		53	3.15(0.41)		53	3.13(0.48)	

(*p<.05)

たことでスキルアップを実感したというコメントが多い (4 件)。次いで、くり返し問題に取りくめること (3 件)、情報を読み取る着眼点 (2 件)、基礎知識の獲得 (2 件) によって、スキルが向上したと捉えていた。

2 年目 (19 名分) では、「着眼点がわかるようになり事象からおこっていることを予測できるようになったから。」といった、事例からアセスメントの際に注意すべき視点を学んだというコメントが多かった (8 件)。加えて、「どこに注目しなきゃいけないのか、また、どこが抜けやすいのか知ることができるため。実践の中でも注意できるため。」といった、現場応用を示唆するコメントも 4 件あった。

中堅 (43 名分) は事前学習を踏まえて対面研修に参加したことがスキルアップにつながったというコメントが最も多かった (10 件)。次いで、新人や 2 年目と同様に、事例がスキルアップにつながったというコメントが多かった (9 件)。また、2 年目と同様に着眼点を得られたというコメントも多く (7 件)、「実際の看護において、患者さんと観察する力が研修前に比べて、ついたと思う為。」など、現場への応用を示唆するコメントもあった (3 件)。

新人、2 年目にない中堅のコメントとしては、「部署で当たらない事例などを検討できるから」などで (3 件)、普段の現場とは異なる事例に触れたことでさらにスキルが向上したと実感している様子が伺えた。また、「”フィジカルアセスメント”というだけで苦手意識がでるが、入門編→初級編と段階をえて学習することで、導いてもらいながら学習することができた。」など、段階的な支援が有効だったというコメントも 3 件あった。

4. 考察

学習回数の結果から、新人よりも 2 年目および中堅が e ラーニング教材によく取り組んでいることが示唆された。本教材は事例中心のため、経験者ほど

実務と照らしながら取り組むのではない。ただし、学習回数が多いからといって、成績がよいとは限らない。今後、LMS のログから受講回数と成績との関係进行调查したい。

また、役立ち感の結果から、入門教材については、新人より、中堅が役に立つと考えていた。中堅の自由記述から、フィジカルアセスメントにあまり関わらない部署で長く働いていたり、育児休業などで一時的に現場を離れていたため、中堅でも基礎知識から学び直したいという要望があるのではない。また、上級教材について 2 年目よりは中堅が役立つと考えていることが分かった。新人や 2 年目は上級教材の難易度が高いと捉えているのではない。

さらに、スキル向上の実感の結果から、中堅は 2 年目よりも e ラーニング教材で学ぶことでスキル向上を実感していることが示唆された。自由記述から、どの群でも事例教材がスキル向上に寄与していることが示唆されたため、今後も事例教材の拡充が必要であろう。加えて、自由記述から経験年数が増えるにつれ、教材での学びを実務に応用していることが示唆された。今後、追跡調査などでスキルの転移について明らかにしたい。

5. おわりに

本稿では、看護師対象のフィジカルアセスメント教育の e ラーニング教材について、2013 年度の質問紙調査の結果を分析した。新人や 2 年目より、中堅が教材によく取り組み、役立ち感やスキル向上の実感を得ていることが示唆された。今後、LMS のログに基づく成績の分析や、更なるインタビューやアンケート調査でスキルの転移について探りたい。

参考文献

- (1) 高橋暁子, 吉里孝子, 本尚美, 鈴木克明: “新人看護師対象フィジカルアセスメント研修における多段階オンライン練習問題の開発と実践”, 教育システム情報学会誌, Vol.32, No.2, pp.186-191 (2015)